

あなたが見つめた希望の光 私は消さない

沖縄全戦没者追悼式では、県立首里高校3年の高良朱香音さん(17)が「平和の詩」を暗唱した。タイトルは「あなたがあの時」。

詩の中で繰り返される「あなたはこれまで高良さんが直接聞いたたり、本で読んだりした体験者の姿を重ねた。戦争が起きることを知らない幼いあなた、人をあやめる意味を理解できないまま徴兵されたあなた、戦後に体験を語ってくれたあなたを思い浮かべた時、一番伝えたかったことは、感謝の気持ちだったという。

「一文でも 一言でも 伝わっていたら」

県立首里高校3年 高良朱香音さん

「あなたがあの時」(全文)
「懐中電灯を消してください」
つ、また一つ光が消えていく。真っ暗になったその場所は、まだ昼間だといろのに、あまりにも暗い。少し温った空気を感しながら、私はあの時を想像する。



金子淳撮影

「はい、ではつけていいですよ」
一つ、また一つ光が増えていく。照らされたその場所は、もう真っ暗ではない。いとうのに、あまりにも暗い。体中にじんわりとかく汗を感じながら、私はあの時を想像する。

あなたが少女に白旗を持たせたあの時、彼女は真っ直ぐに旗を掲げた。少女は助かった。
あなたがあの時、前を見続けてくれたおかげで、私は今、ここにいます。
あなたがあの時、勇気を振り絞って語ってくれたおかげで、私たちは知った。永遠に解かれることのない戦争の呪いを、決して失われてはいけぬ平和の尊さを。
ありがとうございます。
「頭、気を付けてね」
外の光が私を包む。真っ暗闇のあの時、あなたが見つめた希望の光、私は消さない。消させない。梅雨晴れの午後の光を感じながら、私は平和な世界を創造する。
あなたがあの時、私を見つめたまま、すべし視線、未来に向けた穏やかな横顔を、私は忘れぬ。平和を求める仲間として。



最近の新聞記事より

6月18日 毎日

「普通とは何なんだろう」

楽天・オコエ選手投稿に反響

「俺は反抗心から涙ながら、茶色のクレヨンで親の顔を書いた」
ここから飛び降りて生まれ変わって、普通の日本人になれるかなとか、考えた……。プロ野球・楽天イーグルスのオコエ瑠偉選手(22)が15日、自らのルーツに関連して周囲から心ない言葉を受けた体験をツイッター上でつづり、大きな反響を呼んでいる。



本誌が特別表彰状を手にするオコエ瑠偉選手(東京都葛飾区)で2016年、徳野仁子撮影

「甲子園に黒人であるな」つらい体験つづる

話題となっている文章は、オコエ選手の本人名義のツイッターアカウントで15日に投稿された。最初に「俺は誰も責める気はない。文句を言う気もない」とした上で、「おんなじ境遇の人、またその両親の少しでも励みになれば」と思い、炎上覚悟で投稿します。ただ自分のものすごく嫌だった過去をさらけだします」と切り出した。続いて、5歳ごろに保育園で絵本「みにくいアヒルの子」の読み聞かせの際、周囲にじろじろと見られた経験や、親の似顔絵を描く際に先生が「肌色で塗りましょう」と言った時、涙ながらに茶色のクレヨンで親の顔を描いたことなどがつづられた。

この時期は毎日がつらく、「家のベランダから外を眺めながら、ここから飛び降りて生まれ変わって、普通の日本人になれるかなとか、考えてた」と振り返り、「この普通とは何なんだろう」と未だに考えている」と記している。

野球を始めてからの体験も明かした。少年野球時代に「先輩たちは、俺の肌の色をあざ笑いながら、おまえの家では虫とか食うんだろとか、ここには出せないほどの汚い言葉の数々で罵られ、殴られる」という経験をした。試合前の整列で、相手チームから「外人いるぞ、黒人だ」と言われたこともあった。活躍した高校野球時代にも「外人なんて高校野球で使うんじゃない」「甲子園には黒人はであるな」と

いった周囲の言葉を聞いたという。

オコエ選手は投稿で、こうした周囲の言動を受けて傷付く自分の感情について「心が無くなる瞬間。自分が無敵になると、ただ心をシャットダウンして、他人に対して何の感情も湧かなくなるだけだった」と振り返った。

オコエ選手はこの投稿は、16日午後9時時点で約4万件リツイートされ、約14万6000件の「いいね」がついている。ツイッター上では「日本ではアメリカほど肌の色による差別はないだろう」と安易に考えていました、ごめんさい」といった声や「私も黒人と日本人のハーフです。幼稚園の時、肌色と自分の肌の色が全然違つと思いつながらみんなに合わせて肌色を使っていました」といった声が寄せられた。

大阪府立天都市文化研究センター研究員で、多様なルーツをもつ人の文化について研究するケイン樹里安さんは投稿について「同じような境遇の人々に向けて『一人じゃない』と伝え、息苦しい状況が日本社会でも続く現状を指摘したかったのではないかと語る。

オコエ選手は自らの体験についての投稿に続いて、アメリカの人種差別抗議運動のスローガン「#BlackLivesMatter」を投稿した。ケインさんは「オコエ選手の投稿を読んだ人は、人ごとのように『人種差別はひどい』という反応でどまらぬのはなく、そういう社会を許してきたのは自分たちではないかと振り返ってほしい」と話す。【塩田彰】

